



「硫黄島」(石原俊・著)を読んで

我が国には「硫黄島」という島があり、その島が太平洋戦争の激戦地であったことは何となく知つてはいたものの、いまから14年ほど前に、クリント・イーストウッド監督の硫黄島2部作として公開された「父親たちの星条旗」や「硫黄島からの手紙」という映画を観て、初めて臨場感をもつて硫黄島のことを考えたというのが正直なところであった。

私は沖縄県以外の都道府県で、沖縄から一番遠い北海道の出身者が一番数多く沖縄戦にて戦死していることを知っていた。その後、沖縄県平和記念公園からほど近い米須靈域にある北靈碑(北海道出身者の慰霊碑で都道府県別では最初に沖縄県に建立された慰霊碑)を訪れた。

その他の都道府県の慰霊碑も巡回していると、どれほど多くの方々が短い期間で亡くならざるを得ない環境下に置かれたものかと思い、次から次へと涙が流れてきた。その時から、私は太平洋戦争にて戦死した英靈を慰靈する旅に出ようと考ふようになり、その最初に訪れたいと考えた場所が硫黄島だったのである。

さて、硫黄島は、北硫黄島、硫黄島、南硫黄島という3つの島で構成される硫黄列島の中心にある島であり、東京都心から南方に約125キロメートルの距離に位置する。硫黄島2部作で出てくる摺鉢山はこの硫黄島にある火山である。明治維新後、榎本武揚が中心となり南進論(南洋への進出熱)が強まり、1891年9月に明治政府が硫黄列島の領有宣言を行った後は徐々に入植が始まり、敗戦の前年、つまり、1944年に硫黄列島からの強制疎開が開始される頃には100名を超える住民が硫黄島には住んでいた。

ところで、どうして私が「硫黄島」という本を手に取つたか。それは、「硫黄島」という島が我が国の領土でありながら、また、1944年ころまで多数の島民が居住していたにもかかわらず、太平洋戦争が終わつた後現在に至るまで、強制疎開せら

る。その後、私のようなものが硫黄島に上陸できないことが分かり、グアム島に慰靈の旅に出かけたことは、以前、このコラムにも書き綴つたことがある。

さて、硫黄島は、北硫黄島、硫黄島、南硫黄島という3つの島で構成される硫黄列島の中心にある島であり、東京都心から南方に約125キロメートルの距離に位置する。硫黄島2部作で出てくる摺鉢山はこの硫黄島にある火山である。明治維新後、榎本武揚が中心となり南進論(南洋への進出熱)が強まり、1944年9月に明治政府が硫黄列島の領有宣言を行つた後は徐々に入植が始まり、敗戦の前年、つまり、1944年に硫黄列島からの強制疎開が開始される頃には100名を超える住民が硫黄島には住んでいた。

ところで、どうして私が「硫黄島」という本を手に取つたか。それは、「硫黄島」という島が我が国の領土でありながら、また、1944年ころまで多数の島民が居住していたにもかかわらず、太平洋戦争が終わつた後現在に至るまで、強制疎開せら

れた硫黄島の出身者やその子孫ですら、いまだに自由に硫黄島に上陸したり居住することが許されない島であり、続いていることに合点がいかなかつたからである。

1945年8月15日、太平洋戦争は終了した。その後、硫黄島は米軍統合参謀本部の指揮下で海軍太平洋艦隊最高司令部が管轄する軍事占領下に置かれ、翌1946年1月にはGHQが硫黄島を含めた南方諸島の施政権を正式に我が国から分離することを宣言した。さらに、政権返還後も日米において硫黄島はシーレーン防衛の名の下、日米共同利用の軍事基地としての利用価値を大きくしていく。1984年1月には航空自衛隊硫黄島基地隊が新設されるに至つた。中曾根康弘氏が内閣総理大臣であつた同年5月、小笠原諸島振興開発審議会は硫黄島を含む硫黄列島を帰島が困難である旨答申して現在に至つている。

我が国の領土でありながら、出身者に十分な墓参も認めず、硫黄列島出身者が全員亡くなるのを待つているかのようない我が国対応は、まさに北方4島出身者に対する取り扱いと同列だと言わざるを得ない。